

IV 特色ある学校づくりの基本的な考え方

(1) 新しい時代に対応する資質・能力を育成する

- 生命や人権を尊重する精神や感性、多様な価値観を受容・尊重する態度を育むとともに、学びに向かう力を育むため、主体的な「探究」と「対話」で問題解決する学習に取り組み、知識及び技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
- 思いやりの心や協調性、道徳性、感受性やコミュニケーション能力を育むため、異年齢集団活動として、なかよし遊び・なかよし給食などの日常的な活動を充実させ、全校遠足・児童集会等の活動との関連を図り実施する。
- 各教科等で育む論理的・創造的な思考力を基盤として1人1台端末等のICT機器を日常的に使用させることで、プログラミング的思考の育成や新たな学習方法の獲得を進め、学びの質を保证する。
- これまでのオリンピック・パラリンピック教育を生かして、体育学習の充実や体力の向上を図るとともに、運動習慣確立のための取組や個に応じた指導・支援の充実を図る。



(2) グローバルな社会で活躍する人材を育成する

- 「学びのキャンパスプランニング」等を積極的に活用し、「学びのエリア」である上野の森の自然や歴史、人材・文化施設を生かした本物体験や地域人材を招聘した学習に取り組み、感動する場面に出会う機会を増やす。
- おもてなしの心を体現するあいさつ活動を推進するとともに、学んだことを積極的に生かして自己の生活をよりよく変えようとする意欲・態度を育む。自立・自律した人間として責任感をもち、他者と共によりよく生きようとする・生き方を考える学習に取り組む。

(3) 多様なニーズを具現化する教育を展開する

- 難聴・言語障害通級指導学級や特別支援教室の教員による通常の学級での理解啓発授業や年間を通じた授業観察、学級担任との情報共有の実施により合理的配慮を拡大し、特別支援教育・ユニバーサルデザインの教育の推進を図る。
- 21.5世紀に活躍する児童の未来像をもとに、そこで必要な資質や能力を育てるため、自己で課題や学習計画・学び方を選択・設定し、自己調整しながら進める学習等に関する研究を深め、学びの質を保证する教員の指導力を高め、授業改善を図る。

(4) 持続可能な社会を創造する教育を展開する。

- 教育内容の可視化に努める。児童の思いや保護者評価等を積極的に生かし、授業や行事等の内容改善を進める。双方向のやり取りを通して、組織を活性化させ、PDCAサイクルを充実させる。
- 近隣校園や社会教育施設の連携組織や民間団体の教育プログラム等を生かし、指導の系統性・学びの継続を重視した教育活動の充実を図る。



あいさつ大使



全校遠足



長なわさんぽ

V 校内研究の充実

令和6・7年度 台東区教育委員会研究協力学校

WELL-BEINGな社会を目指して **学びが変わる!学校が変わる!**

個別最適な学びを実現する生活科・総合的な学習の時間の授業づくり

視点① 自ら選択する課題や学び方、学習計画

視点② 学びの空間を広げ・深める学びの空間

視点③ 学びの質を保障する

